

1. 実践研究テーマ

- ・幼小中一貫教育の仕組みの中で、11年間を見通し、学びの連続性および指導の一貫性を持たせた教育活動をどのように実践するか。
- ・生徒の学びに向かう力の醸成のために、授業づくりをどのように工夫すればよいか。
- ・若手教員の授業力向上および授業改善に向けて、瀬戸中型メンター制をどのように進めていくか。
- ・基礎基本の習得をめざした家庭学習の充実に向けて、保護者とどのように連携していくか。

2. 取組の内容(協力校等との連携等を含む)

〔学校経営〕

◇自立した生徒の育成(心づくり教育の推進)

- ① 夢・心づくりノート「群青」の活用(PDCAサイクルを回す経験)
- ② 夢・心づくり塾の開催(魅力的な大人との出会い)
- ③ 生徒も先生もPBS活動(賞賛や感謝の気持ちを伝える)

〔教育活動〕

◇学力の向上(自立型学習者の育成)

- ① 学習面の課題抽出・分析(全教員で実施)
鳴門市校内学力向上推進員情報交換会などの研修会で協議
- ② 授業改善(「主体的・対話的で深い学び」の実践)
各教科での具体的で効果のある学習実践を発表
- ③ 効果的なICT機器の活用実践やAIドリルの活用

〔人材育成〕

◇グループ担任制及びメンター制を活かした教職員集団

- ① 小規模校ならではの魅力→学校、学年(学級)全体で生徒のサポート
- ② 若手教員の資質向上とベテラン教員による教育理念や指導技術の継承
- ③ 教職員相互のコミュニケーション増加によるチーム学校の実現
- ④ 生徒への関わりを丁寧に。保護者、地域との人間関係づくりを良好に。

北京パラリンピック出場の本
校出身先輩が講演



小学6年生がオープン
スクールにてALT教師
の授業を体験



各教員の端末から
授業研究会での意見を
貼り付けグルーピング

学力向上の取組につ
いて各グループごとの
意見交換で授業改善



3. 取組の成果

○ 教職員の変容

- (1) 若手教員の成長
 - * 基礎基本を重視したわかりやすい授業の展開
 - * 生徒にとって効果的な授業づくりの工夫
- (2) 風通しの良い職場環境づくり
 - * 教職員間のコミュニケーションで良関係づくり
 - * グループ担任制により情報交換増
- (3) 生徒への承認・賞賛の言葉がけ
 - * ポジティブ行動支援を繰り返し行う教師の姿
 - * ピンチであるがゆえの団結力(協働力)

○ 児童生徒の変容

- (1) 昨年度の鳴人研大会を通じて
 - * 仲間を認め合う意識が醸成。心の成長もあり、徐々に落ち着いた学習環境になった。
- (2) テスト結果への満足度は向上
 - * 放課後や休み時間の質問へ対応することで、生徒のやる気が向上。徐々に成績が向上してきた。
- (3) 「学校が楽しい」と感じる生徒増加
 - * ポジティブ行動支援により、本年度、学校評価で73.2%の生徒が肯定的に捉え、増加した。

4. 2年間の実践を振り返って

- ・ 授業内容を改善することで、生徒の学習意欲を引きつける工夫(個別的学习やICT機器の活用)
- ・ 生徒一人一人を大切にされた教職員の意思疎通(グループ担任制を生かした共通認識・協働力)
- ・ 基礎基本の習得をめざした家庭学習の充実と保護者との連携(家庭との連絡体制を密に)